

明けまして  
おめでとうございます

本年も女子サッカーを  
よろしくお願ひいたします。

さて、昨年2016年は旭川地区サッカー協会誕生70周年の年でした。

下記の文は、70周年に向けて書いた「回想録」です。旭川の女子サッカーの歴史や現在の女子サッカーの様子が、少しあわかっていただけると思います。

新年を迎えて、読んでいただけると幸いです。

## 旭川地区サッカー協会70周年、おめでとう！

旭川地区サッカー協会女子委員長 鈴木康宏

旭川地区サッカー協会が、数々の輝かしい業績を積み重ねて創立70周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

旭川の女子サッカーは、昭和57年に五十嵐一彦・香代子夫妻の努力で旭川女子サッカークラブとして誕生し、平成元年に全道女子サッカー選手権大会で準優勝しました。一時リッヂーズと2チーム時代を経て、現在の旭川女子アチーボになっています。今もなおアチーボの中心選手として現役を続けている宮島るみ子選手は当時18才、遊びのサッカーから本格的にチームに所属してサッカーを教わったそうです。

さて、旭川の女子サッカーもこの10年で大きな変化を遂げています。特に、4種での女子の登録数激増、それに伴って3種の部活への女子の進出、更に、サッカーで上を目指す選手の登場によって、高校では札幌・室蘭・帯広へ、大学では関東圏へと、サッカー選手としての活躍の場を求めて進学する事も普通になってきました。

平成28年度の4種女子登録数は、3年生18人、4年生28人、5年生27人、6年生39人、計112人となっています。しかし、登録していない子や1年生からの人数を考えると相当な数のサッカー女子が存在します。6年生に至ってはチームのレギュラー、いや、チームの中心選手として活躍する女子も多数います。

3種の中学校の部活では、約12の中学校に女子選手が籍を置いています。また、3種でも学年やレベルに合わせたリーグ戦を増やした事で女子選手の活躍の場も増え、今後中学校へ行ってもサッカーを続ける女子が増えることは嬉しい事です。

高校で全国を目指したい選手は全道各地へ飛び立ち、全国常連の札幌文教大明清高に2人、大谷室蘭高に4人、そして帯広北高に2人など、それぞれの高校で頑張っています。

また、大学では静岡産業大学に1人、神奈川大学に1人、国士館大学に1人が現在在籍し、全国から集まつた女子たちと切磋琢磨し、関東リーグで活躍しています。

そして、この10年で中学・高校・大学で常にレベルの高いサッカーを目指し、その経験を積んで今年社会人になり、全く違った道に進んだ2人がいます。

一人は、藤村茉由選手（啓北中一札幌明清高一尚美大）。今年、なでしこリーグに昇格した「長野パルセイロ」に入り、旭川初の「なでしこリーガー」になりました。リーグ戦にも出場し、なでしこジャパン（日本代表）の選手たちとも只今戦っています。

もう一人は、坂本葵選手（永山南中一室蘭大谷高一大学No.1の吉備国際大）。今年、指導者として旭川に帰ってきました。旭川実業の教師となり、来年からの女子サッカーチーム設立に向け、男子サッカーチームの富居監督のもとで只今修行中です。

また、旭川南高校に女子サッカーチームができた事もこの10年での大きな変化の一つです。高校でもサッカーが受けられるという環境を作ってくれた南高に大きな拍手を贈ります。来年からの旭川実業高との2校体制は、旭川女子サッカーの益々の発展につながるものと、大いに期待しています。

さて、女の子がサッカーを続けていける環境や女子サッカーの指導者数など、まだまだ課題は多々あります。しかし、この子たちが将来母となり我が子とボールを蹴る。サッカーができる母親に驚いた子どもたちは、皆喜んでサッカーを始める。そして、それがサッカー文化へと続く。そんな事を夢見なら、女子委員会は今後も努力して行きたいと思います。

